

令和2年度 実践事例報告書

学校番号	情01	学校名	日本文理大学附属高等学校	担当教員名	安東慎一郎
ねらい (○印)	a) 知財の重要性 b) 法制度・出願 c) 課題解決(創造性開発・課題研究・商品開発等) ④ 地域との連携活動 e) 人材育成(学習意欲向上、意識変化等) f) 学校組織・運営体制				
関連法(○印)	① 特許・実用 b) 意匠 c) 商標 d) その他()				
年間の取組内容		実施時期	該当する要素の番号		知財学習の要素
①発明クラブ設立	4月～	1, 3	1. 創造 創造し表現する体験	レ	(1)創造性を鍛える
②弁理士会オンライン講座	7月	4, 6, 7, 9, 12, 13		レ	(2)情報を利用する能力
③おおい知財塾オンライン	11月	4, 6, 7, 9, 10, 13		レ	(3)発想・技術を表現する能力
④手指消毒ポンプ市役所設置	10月	1, 4, 5,		レ	(4)観察力を鍛える
⑤弁理士会冊子授業	7月	11,			(5)技術を体系的に把握する能力
⑥知財授業	7月	1, 5, 6	2.保護 財産として保護 ・尊重する意識	レ	(6)商品や社会とのつながりの理解
⑦知財授業、ネット教材	7月	2, 6, 7,		レ	(7)保護・尊重する意識
⑧タブレット JPlatPat 検索	7月	2			(8)技術等と権利の対応関係を把握する能力
⑨パテントコンテスト課題	8月	1, 3, 4		レ	(9)手続の理解
⑩			3.活用 社会で活用する知恵と行動力	レ	(10)権利を活用する能力
⑪				レ	(11)産業や経済との関係性の理解
⑫			4.知識 社会制度の理解	レ	(12)制度の学習
⑬				レ	(13)専門家、資格制度の関する知識
令和2年度末における取組目標の達成見込	A	ほぼ達成(9割以上)	判 断 理 由	生徒感想文から知財に興味関心を持ったことが伺えたが、その後の様子を見ると継続できていない。	
	B	概ね達成(7割以上)		授業で継続的に取り組む必要がある。	
	③	不十分である(6割以下)			
	D	ほとんど達成できていない(4割以下)			
実施方法	<input type="checkbox"/> 全校で実施 <input checked="" type="checkbox"/> 教科・学科で実施 <input checked="" type="checkbox"/> 特別活動で実施 <input type="checkbox"/> その他()				
本取組の状況 (なるべく具体的な数値とともに記載をお願いします)	1年44名、2年20名、3年34名、発明クラブ5名に授業やクラブ活動で知財学習に取り組んだ。 コロナ禍もあり、学校休校や出前授業など制限が多かったが、通常は参加できないセミナーをオンラインで受講できる機会もあった。このセミナーでは生徒アンケートから多くの生徒が知財に興味関心を持ったことが伺えたが、その後の様子を見ると継続できていない。 今後も本校の特色として知財教育を位置づける取り組みを継続したい。				
最も成果が見られた取組 [4]	成果内容	自動手指消毒ポンプを製作し、市役所に設置。 県発明くふう展県教育長賞、全日本学生自動発明くふう展推薦			
	生徒・学生に見られた変化	アイデアを出し、ブロックを使った機構制作、プログラミング、テスト、失敗、修正に取り組む、試行錯誤、問題解決の過程を通じて、生徒はいろいろな事を学ぶことが出来た。			
	その根拠				
今後の課題	知財教育の定着、レベル向上				
課題への対応	科目、クラブとしての取り組み継続				

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」

<写真・図表等掲載欄>



探究時間
知財学習を通して問題を解決!
 知財力量校支援事業に採択され、生徒の発明工夫を
 実用新案登録。知財学習によって地域や社会の課題を
 発見・解決し、創造力や問題解決能力を高めています。



オンライン知財学習
 通常受講できない講座をリモート受講



タブレット活用
 普通教室で知財情報活用

学校パンフレット知財学習掲載
 知財学習を本校特色に



全日本学生児童発明くふう展入選
 大分合同新聞



自動手指消毒ポンプ製作、市役所設置
 読売新聞

自動手指消毒ポンプ製作、市役所設置

知財教育を定着させるため発明クラブを作った。
 発明クラブではコロナ対策を知財学習で行なう取り組みとして
 自動手指消毒ポンプを製作し、市役所に設置した。
 生徒はさまざまなアイデアを出し、ブロックを使った機構制作、
 プログラミング、テスト、失敗、修正、に取り組んだ。
 自動手指ポンプは市役所にも設置頂いた。
 なかなか上手くいかなかったが、試行錯誤、問題解決の過程を
 通じて、生徒はいろいろな事を学ぶことが出来た。
 自動手指ポンプは簡単な内容のためパテントコンテストでは
 なく、県発明くふう展に応募した。県発明くふう展は創意工夫
 を評価するもので、県教育長賞を受賞でき、全日本学生自動発明
 くふう展に推薦された。
 また、コロナ対策の取り組みであったので、多くのメディアに
 取り上げて頂き、本校の特色として知財教育の取り組みを広報できた。



自動手指消毒ポンプ市役所設置